

R3年度地域課題への取組 報告書

提出日 令和6年 3月 2日 部会名・WG名 生活介護での入浴支援ワーキンググループ

取組んだ課題

入浴サービスを提供する生活介護の数が限られている状況の中、利用者ニーズを調査した上で、入浴サービス提供事業に対する加算や助成のほか、事業所自体を増やすための方策についてワーキングで検討し、令和6年度予算への反映をめざす。

取組んだ内容・得られた結果	今後の方向性	方向性を出した理由
<p>R5年度の取組みは次のとおり。</p> <p>(1) 入浴支援に関わる加算については、R6年度の報酬改定には反映されない様子であり、次回報酬改訂に反映させるための、ルートや方法について調査・検討した。</p> <p>⇒市長会から国へつなげるルート及びスケジュールの確認。</p> <p>⇒報酬改定の2年前には意見が挙げられている必要がある。</p> <p>(2)利用者ニーズの充足状況調査</p> <p>①利用者の入浴ニーズについて、相談支援専門員向けにアンケートを実施。(35事業所 87名対象 回答者 12名 回収率 13.7%)</p> <p>⇒相談支援専門員へのアンケート結果では、生活介護での入浴ニーズがかなっていない方は約7%であり、ほとんどの方は、生活介護での入浴希望がかなっているという結果になった。そもそも入浴サービス提供事業者が少なく、諦めているためなのかは不明。</p> <p>②生活介護事業所に対して、R4年度と同じ内容でアンケートを実施</p>	<p><input type="checkbox"/> 施策化</p> <p><input type="checkbox"/> WG化</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 終結</p>	<p>◇R6年度報酬改定で、医療的ケアが必要な者等への入浴支援を提供した場合の【入浴支援加算】が新設される予定となった</p> <p>◇相談支援専門員へのアンケート結果で、ほとんどの方は、生活介護での入浴希望が満たされているという結果が出た。</p> <p>◇一人にかかる入浴時間は大きく変わる訳ではなく、介助者の増員や送迎効率を上げても、入浴利用者数を増やすことは現実には難しい。入浴サービスを提供する生活介護事業所自体が増えないと、改善されなれないと思われる。新規事業所開設の際には、設備の整備を含めた国庫補助の制度を活用する場合も多いため、市単の補助制度を要望するのは難しいのではないかと。</p>

施し、コロナが 5 類に移行された現在の、サービス提供やニーズの変化を調査。(12 事業所対象 回答 11 事業所)

⇒事業所の状況は大きく変わらなかったが、光熱水費の高騰により、新たに利用者の実費負担を設けた事業所が 2 ヶ所あった。

(実費負担あり:R4 年度 5/10 事業所 7/12 事業所)

⇒入浴設備の設置・維持・改修費用が高く、補助が欲しい。

(3) その他の切り口で検討できることがあるか。

⇒市単の新規事業は難しいが、どんな切り口で検討が可能か、アンケートもふまえて検討。